

水害や人災から 史料保存考える

文化芸大で講演

県博物館協会は、浜松市中央区中央の静岡文化芸術大で、災害時に史料を守る方法を考える講習会を開いた。岐阜県美術館（岐阜市）の課長補佐兼学芸係長の広江泰孝さんが登壇し、約50人が聞き入った。

広江さんは、災害時には

防犯態勢のほか、水害や人災への備えを考えておく必要があると指摘。水害ではカビや虫が発生することが

想定されるため、どのような種類のものがあるのか把握して対策するとともに、対応を明確化してそれぞれの状況に応じて取り組むよう促した。

同大の西田かほる教授も登壇し、史料を継承していくための方策を語った。

（木造康博）

史料の保存について語る広江泰孝さん＝浜松市中央区で

